

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470201054
法人名	有限会社 畳石介護センター
事業所名	グループホーム 親孝行
所在地 (電話番号)	石巻市須江字尻沢55番地 (電 話) 0225-73-2452
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 19 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5 人、非常勤 15 人、常勤換算	14.75 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(11 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	0 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 76 歳	最低 60 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	簡野医院 本郷歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣家と少し離れており、広い敷地に畑もあってその周りの柵には収穫した大根が沢山干されていた。その先に鉄筋平屋の2ユニットのホームがある。「明るく笑顔と会話の絶えない家族」を経営理念とし「利用者と話し合いその希望を中心に」を合言葉に管理者も職員も、思いを共有しケアの実践に努めている。管理者は職員が楽しくなければ入居者も楽しめないといろいろなクラブ(料理、手芸、美術、園芸、運動、情報)をつくりそれぞれ得意な分野で楽しんでいる。又、リフトバスなどを利用し外食や温泉など計画的に外出をしている。尚、地域密着型事業所として、運営推進会議を通して地域住民との絆を深めるために地域で活躍している多彩なメンバーにお願いしホームのよき理解者として協力を頂いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①「馴染みからのサービス利用について」スタッフミーティング等を通して学習し、入居予定者や家族と入居前に出来るだけお会いし、少しでも顔見知りになるようにしている。 ②「思いや意向の把握について」入居者の意向把握は個別ケアの基本である事を勉強会等で理解しあい、入居者の何気ないつぶやきにも思いや意向を察しサービスの向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員に渡し、各自が日常のサービスを各項目毎に点検しその結果を皆で話し合い、管理者が中心になってまとめられた。皆の思いや考え方を参考にしながら、自分の思いを確かめ設問の趣旨を理解している。尚、自己評価のサービス成果(自己採点)と、家族アンケートの満足度を比較すると謙虚な自己採点であった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域密着型事業所と地域の絆をよくする為の大事な会議である。メンバーには入居者、家族、地域包括支援センター、地域の活動家(区長、老人会会長、少年野球クラブの団長、音楽同好会の会長、福祉ボランティア等)など多彩である。メンバーはホームのよき理解者であり協力者である。会議は、2ヶ月に1回開催されている。話し合いからホーム独自の家族アンケート等も実施されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談や苦情は、サービスの向上にとって貴重な情報源である。玄関に苦情受付箱を設置したり、独自に家族アンケートを取ったり努力をされているが、重要事項説明書にはホームの相談苦情の窓口は明記されているが、国保連、市の介護保険課や第三者委員の連絡先の表記はないのでお願いしたい。尚、家族がとすれば躊躇しがちな相談苦情の窓口が、いろいろある事を家族に繰り返しお話しして頂きたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者は地域住民の一員として地域でいろいろな世話役を引き受けており、ホームは町内会の清掃活動や花植え等にも参加している。又、ホームが中心になって、2月には節分祭(地域の高齢者を招待し豆まきや美味しい昼食会や職員の余興等)、6月にはふれあい交流会(お祭りで小中学生から高齢者まで歌や踊りなど約300人参加)を開催し、地域住民と入居者、家族、職員が交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく笑顔と会話の絶えない家族」と、開設時の思いを入れた経営理念は創られている。尚、グループホームは地域密着型事業所となり、その有り方を皆で話し合いその思いを経営理念のサブタイトルとして取り入れたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、行動規範として「利用者話し合いその希望を中心に」を職員皆が意識をし、よりよいケアを目指して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域住民の一員として、地域でいろいろな世話役もしており地域との繋がりも多い。町内会の年3回の清掃や年2回の花植えに皆で参加したり、ホーム主催のふれあい広場や節分祭り等で、地域住民と入居者、家族、職員が積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員に渡し各自項目毎に点検しその結果を皆で話し合い、管理者が中心になってまとめられた。その事によって具体的な「気付き」が共有されケアの向上に活かしたいとしている。尚、自己評価のサービス評価（自己採点）と、家族アンケートの満足度を比較すると謙虚な自己採点であった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議が地域との絆を良くする為の大事な会議である事をよく理解している。メンバーに入居者、家族、地域包括支援センター、区長や地域で活動している人（老人会の会長、少年野球クラブの団長、音楽同好会の会長、福祉ボランティア等）多彩な顔ぶれである。運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議の話し合いでホーム独自のアンケート調査も行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の説明会に参加したり行政の指導を受けている。外部評価にも市の職員が同席され、ホームの生活の様子を良く見ておられた。又、「医療連携体制加算」等についても指導されていた。今、「認知症になっても安心して住める街づくり」が進められておりホームが、認知症ケアの地域拠点として市と連携し、認知症に対する地域への啓発啓蒙もお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に入居者の日常生活の様子をお話したり、介護記録を見て貰ったり小遣帳を確認して貰っている。又月1回「親孝行会報」や「個人情報提供書」等を送ってホームに来られない家族にも入居者の生活がわかるように報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は相談や苦情は、サービス向上にとって貴重な情報源である事を理解し、玄関に「苦情受付箱」を設置したり、独自の家族アンケートを取ったり努力している。重要事項説明書には、ホームの相談苦情窓口は明記されているが、国保連、市の介護保険課、第三者委員の連絡先の明記がない。	○	家族がとすれば躊躇しがちな相談や苦情について、いろいろな窓口がある事を重要事項説明書に記載し、その事を家族に繰り返しお話をして頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって、馴染みの職員や馴染みの場所は、安心して生活出来る条件である。法人内の職員の異動は殆ど無い。ホームでは担当制で馴染みの関係を作りながら、個別介護記録で全職員が情報を共有し、異動があっても出来るだけ入居者が混乱しないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、「職員の資質の向上の為、研修を受けさせなければならない。」(基準省令、義務条項)をよく理解しており積極的に職員を研修に参加させている。実践研修に参加した職員は「目から鱗が落ちました。」と研修の内容について話してくれた。尚、職員の資格取得には全面的に協力し費用の支給等もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は地域での課題を話し合ったり、実践的な知識や技術の向上だけでなく、職員間の親睦を通してストレスの解消にもなると言われており、他のホームと交流をしている。尚、市内の同業者と連絡会を作るべく、市の保険課の助言を頂きながら進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に知らないところに入れられたという思いを少しでも少なくなるよう、職員が出来るだけ入居の前に本人や家族にお会いして話し合いをしたり、少しでも顔みしりになれるよう努力している。又、入居してできるだけ早くホームに馴染めるよう、その人の生活歴や習慣を大切にして支援している。尚、ホームは共生型通所サービスができるようになったのでその利用も活用していただきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者は、人生の先輩であり知恵袋を背負っているとも言われている。認知症になっても、手続き記憶は残っている。家庭菜園(種まきや収穫の時期等)や調理(味付け、隠し味、煮物、旬の食材の活用等)などでは職員が教わる事が多く感謝をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「思いや本人の意向」を把握し共有することがチームケアの原点である。生活歴や人生経験等家族や関係者に聞いたり、通院の車やお風呂で、しんみり話しあったり何気ない会話に思いがあったり、気付いたことを記録し整理し共有しアセスメントに活用している。尚、意思表示の困難な人でも今までの経緯を参考にし表情や身振りなどで判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はチームケアの要である。入居者や家族の意向を尊重し、関係者によるカンファレンスを行い長期、短期の目標を立て、個別具体的な介護計画が作られている。尚、家族には話をし同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的には3ヶ月毎にモニタリングをし見直しをしている。尚、状況の変化に対応して、その都度介護計画の見直しをし柔軟に対応し家族にも話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	住み慣れた地域で生活する為に、条件つきでグループホームもショートステイやデイサービスができるようになった。当ホームも共生型デイサービスが認可されたので、リロケーションダメージを少しでも少なくし、馴染みになって入居できる事を期待したい。尚、入居者にとって「社会生活上の便宜の提供」として、通院や個別の外出の送迎なども支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の付き添いは、医師の希望もあり状態を把握している職員が家族と相談し付き添うようにしている。その結果は家族に報告している。かかりつけ医と協力医の連携も良い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度になっても日常生活のケアの延長上に生活ができるよう、「重度や看取りの指針」もつくられ成文化している。本人や家族の意思を尊重し、早い時期から話し合い延命治療か緩和ケアか等の意思確認をしながら、医師をはじめ関係者やスタッフの理解と協力を得てできるだけの対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者が人生の先輩として尊厳の念を持って接しており、呼び名一つにしても本人や家族の気持ちを尊重している。接遇にしても排泄や入浴など羞恥心に配慮している。又、個人情報の取り扱いや管理については家族にも伝え注意して取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを基本としており、入居者のそれぞれの生活のペースやリズムを尊重している。起床、食事、入浴、外出など本人の希望を優先し必要に応じて勤務の対応も考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者も職員も食事は生活の中でも楽しみですと言われた。ホームでは、料理クラブが中心になり入居者や家族の協力を得て、メニューの考案、食材の購入、配膳、後片付けなども擬似家族として、入居者も一緒に行なっている。職員も同じものを食しながら楽しい食事会になるよう声掛けていた。月に1,2回は外食を希望するものを注文している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な面だけでなく、できるだけ希望する時にゆっくり気持ちよく入って頂くよう入浴剤なども使用している。又、希望者がいれば夜間入浴も考えたいとしている。入浴を拒む人には時間をずらす等で上手に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの方の持てる力を引き出しながら、入居者も職員も一緒に楽しめるよう各種クラブがある。(料理、手芸、美術、園芸、運動等)これらのクラブの司令塔の役目をする「情報クラブ」が、季節の行事や話題をテレビなどから得、各クラブに情報として提供し入居者も職員もそれぞれ希望するクラブでレクリエーションとして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、気分転換やストレス解消となり精神衛生上よく、生活の範囲も広がっていく。入居者の希望する所(馴染みの美容院、馴染みの店等)は出来るだけ対応している。又、ホーム外のレクリエーション活動として、年間計画を立て、お花見、小学校の運動会、市のしみん市場、松島観光、追分温泉、かんぼの宿など、入居者も職員も一緒に楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛けていない。玄関を開けたときは、念のため注意を喚起するメロディーが鳴る。徘徊気味の入居者に対しては見守りや声掛けをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルもあり、それに従って夜間想定した訓練も含め年2回避難訓練をしている。1回は消防署立会いの訓練で地域の人の協力も頂いている。夜間想定した訓練は継続して実施し、誰が夜勤者でも冷静に対応できるようでありたい。食料や水は2日分備蓄している。「六郷の杜」の火災後消防署の特別査察に夜間の避難手順の確認もする事になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、おいしく楽しくすると共に栄養のバランスも大切である。管理者の知人の管理栄養士の指導と助言により、個人個人の状態に合わせて食べ易く、栄養も考えた食事を提供している。尚、食事量や水分量は、毎日チェックしており体重は、月1回測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体に落ち着いた雰囲気があり、臭気や空気のよどみのようなものは感じられなかった。温度や湿度の管理もされていた。食堂には大きなクリスマスツリーも飾られ季節感も感じられた。壁面にはレクリエーションの写真も飾られ、戸外で楽しんでいる生き生きした表情が見られた。廊下にはセミプライベートゾーンとして椅子なども用意されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方が混乱しないよう、馴染みのものに囲まれて自分の居場所として安心して過ごして貰えるように家族の方をお願いしている。居室には、使い慣れた身の回りの物や家具等も持ち込まれていた。家族の写真やテレビ等も持ち込んでいる人もいた。尚、居室は自動換気システムが設置され職員が管理していた。		